

このたび齊藤純前総領事の後任として在モントリオール総領事に着任しました内川昭彦（うちかわ・あきひこ）です。9月末に到着しました。これまで海外では、イタリア、タイ、南アフリカで勤務してまいりました。国連等多国間外交の場などでカナダの方々と仕事を共にしたことはありますが、カナダへの赴任は初めてです。

ケベック滞在の最初の2週間で、ケベックの方々の日本への関心の高まりに嬉しい驚きを感じました。

(1) ケベック・ジャパン・ビジネス・フォーラム

このフォーラムは日本とケベックのビジネス関係強化を目的とし、約70人のメンバーを擁していると伺いました。9月29日、このフォーラムの会合に出席させていただいたところ、日本に関心のある企業や当局の方々に多数お会いすることができました。このフォーラムにはケベック政府も深く関与しており、当局の力の入れようも感じます。また、在外におけるオフィスとしてはアジアでは最も格の高い「総代表部」の地位を有するケベック州政府在日事務所が設置されて以降、今年で半世紀になることも知りました。着任して翌々日にこうしたことをお伺いし、日・ケベック関係の堅固なベースが存在することをとても心強く感じました。



(2) ラヴァル大学のインド太平洋研究チェア

ケベック州が2021年にインド太平洋に関する地域戦略を発表したことはご存じの方も多いと思います。そのフォローアップとして、5日、ラヴァル大学がインド太平洋研究チェアを開設しました。当日式典には、ラバル大学副学長代行、ケベック州国際関係・仏語問題担当省（MRIF）部長、チェア主任となるラセル教授も出席されました。また、このチェアには MRIF が5年間で100万ドルを投じたことも明らかにされました。日本としても、ケベックの眼がインド太平洋に向いていること、当局が戦略を着々と具体化されていることについては歓迎するところ大です。また、この際に開催された2日間のセミナーで、カナダの大学から15名、日本を含む他国から12名もの教授がこのテーマについて主に仏語で意見を交わしたことに、仏語によるインド太平洋にかかる情報発信という点から特徴的でした。州都に所在する歴史ある大学で、インド太平洋にかかる研究機関が設置されたことは、誠に意義が大きいことです。



(3)カンパイ・モントリオール

文化的・経済的分野では、同じ5日に、モントリオールにてケベック日本酒協会(ASQ)主催の日本酒紹介イベントが行われ、日本各地の日本酒や食材を扱う業者の方々が出展し、200－250名の方々が来場され、熱気にあふれた会場で日本酒等を楽しんでおられました。今回で開催は3回目とのことですが、輸入できる日本酒の種類も増えており、年々、ケベックの方々に味わっていただける日本酒もバラエティに富んだものになりました。また、JETROも日本産水産物の販路拡大のため、この場で料理デモやサンプリングを実施しました。今後も、このイベントが現地の方々にとっておいしい日本酒を体験する機会となればよいと思いました。



当地では、幾世代にもわたって、日本人及び日系人の皆様が、日本とカナダ、とりわけケベック州をはじめとする東部5州との関係を様々な形で支えてくださっていると聞いており、敬意を表するとともに、大変心強く感じております。また、ケベックでの私の最初の14日間はまさにこれを目の当たりにする日程でした。このような非常に前向きな背景のもと、当総領事館はカナダにおける日本への理解を深め、関係を強化するために努力してまいります。

また、歴代の総領事同様、私としても、まずは、邦人の皆様が安心して生活し、大いに経済・文化・学術・芸術活動等に取り組んでいただけるように、領事サービスの充実に努めて参ります。

これからも在モントリオール日本国総領事館の活動に対し、御理解・御協力のほど、よろしくお願いいたします。